

2027年卒の採用広報解禁から1カ月が経つが、就職戦線はどのように進んでいるだろうか。キャリアタス就活・学生モニターを対象に、4月1日現在の就職活動状況について調査を行った。前年同期調査や先月（今年3月調査）の結果とも比較しながら、現状を分析する。

1. エントリー社数と会社説明会の参加社数

- 一人あたりのエントリー社数の平均は19.2社。前年同期調査（21.8社）より2.6社減少
- 説明会参加社数の平均は、オンライン13.8社、会場型4.8社

2. 選考試験の受験状況

- ES提出、筆記試験、面接試験とも約9割が経験。最終面接は7割強が経験
- ES提出社数は前年を上回る（平均9.7社→10.7社）。筆記試験と面接社数もそれぞれ増加
- 「ESの締切が早過ぎて応募できなかった企業がある」学生は半数近くに上る（47.8%）

3. 4月1日現在の内定状況（※）

- 内定率は67.6%。前年同期実績（64.9%）を2.7ポイント上回る
- 就職先を決めて活動を終了したのは全体の2割強（22.1%）。7割が就職活動継続（計72.4%）
- 内定業界は「情報処理・ソフトウェア」が依然最多。文理とも1位

4. 内定後に企業から受けたフォロー

- 内定取得者の大半が早くも内定企業からのフォローを経験
- 内容は「他の内定者との懇親会」「人事担当者との面談」「社員との懇親会」などが多い

5. 就職活動継続学生の動向

- 現時点の志望業界1位「官公庁・団体」、2位「銀行」
- 今後の活動方針、「エントリー企業中心」（32.9%）、「新たな企業を探す」（26.1%）
- 就職活動を終わりたい時期は、今年も選考解禁後の「6月後半」が最多（20.5%）

6. 会社説明会での不満

- 会社説明会に不満を感じたことがある学生は8割
- 不満の1位「内容に乏しい」、2位「カメラONでの開催」、3位「時間が長すぎる」

7. 魅力を感じる採用形態

- 「総合職採用（メンバーシップ型）」が最多も、減少傾向。「初期配属確約採用」は年々増加

※「内定」には、内々定を含む

調査概要

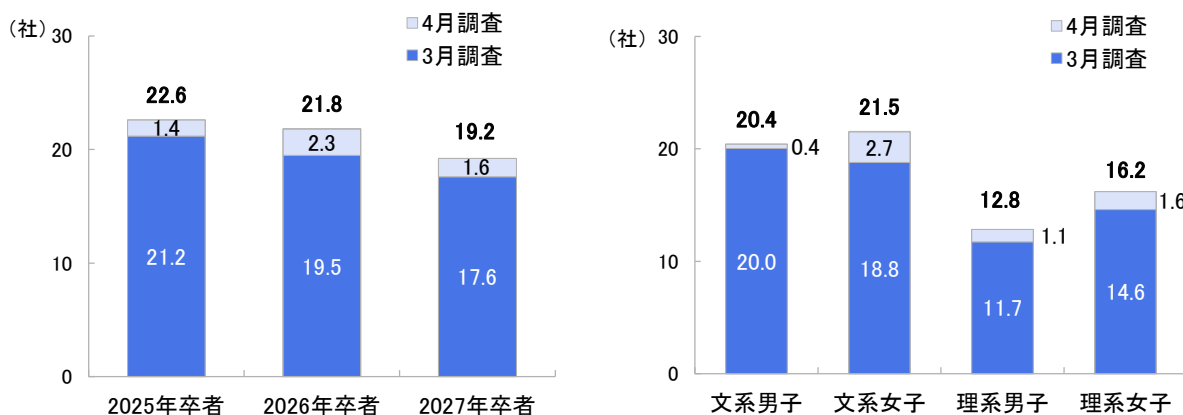
調査対象：2027年3月に卒業予定の大学4年生（理系は大学院修士課程2年生含む）
回答者数：1,057人（文系男子223人、文系女子481人、理系男子186人、理系女子167人）
調査方法：インターネット調査法
調査期間：2026年4月1日～6日
サンプリング：キャリアタス就活 学生モニター2027
調査実施：株式会社キャリアタス/キャリアタスリサーチ

1. エントリー社数と会社説明会の参加社数

まず、4月1日時点の活動量を見てみよう。

一人あたりのエントリー社数の平均は19.2社。この1カ月での増え幅は1.6社にとどまり、3月調査に引き続き前年同期実績を下回った。内定率が高水準で推移する中で(後述)、新たな企業に目が向きにくく、新規エントリーはあまり活発でなかったようだ。文理男女別で見ると、男子は文理ともに前月からの増え幅が少なく、特に先月最多だった文系男子はほとんど増えていない。

<エントリー社数>

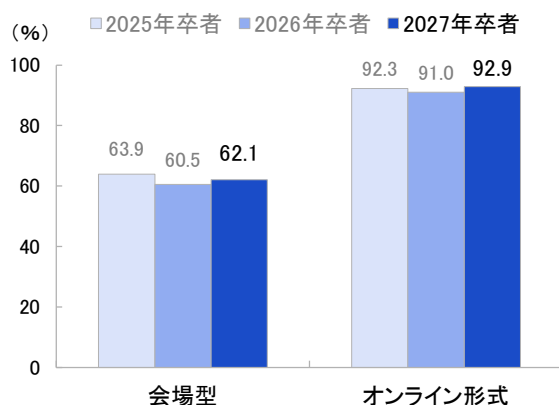


※各年4月調査

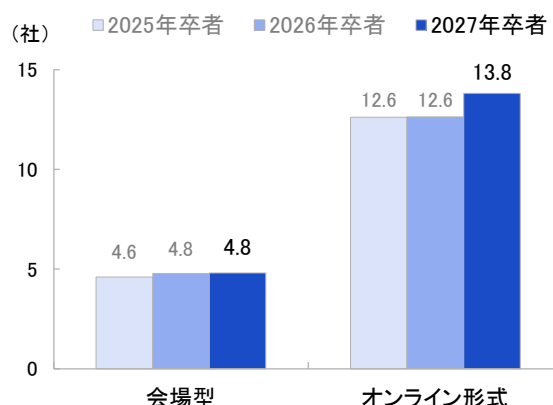
会社説明会(個別企業のセミナー)の参加状況を、開催形式ごとに尋ねた。「会場型」は全体の6割以上(62.1%)、「オンライン形式(WEBセミナー)」は9割以上(92.9%)が参加経験を持つ。

参加・視聴の社数を見ると、会場型は平均4.8社で前年と同数。オンライン形式は平均13.8社で、前年を約1社上回った。

<会社説明会 参加・視聴経験>



<会社説明会 参加・視聴社数>



<会社説明会 参加・視聴社数/属性別>

	全体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
会場型参加社数	4.8	4.8	5.8	4.7	3.0	4.2
オンライン形式視聴社数	13.8	12.6	13.9	15.9	8.6	12.8

2. 選考試験の受験状況

選考試験（本選考）の受験状況を確認したい。エントリーシート（ES）の提出、筆記試験、面接試験は全体の9割前後が経験。最終面接は7割超の学生がすでに経験している（75.5%）。

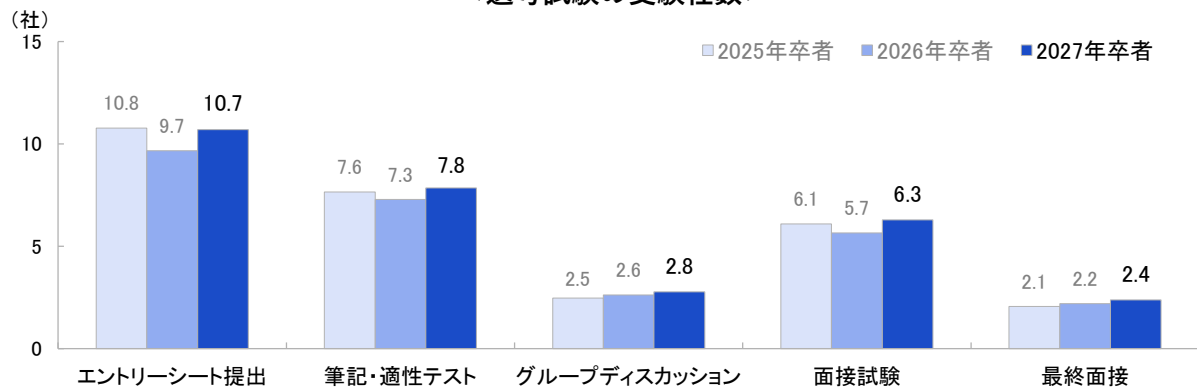
受験社数を見ると、ESの一人あたりの提出社数は平均10.7社で、前年同期（9.7社）より1社増えた。それに伴い、その後の試験の社数も前年同期を上回っている。

「ESの締切が早すぎて応募できなかった企業の有無」を尋ねたところ、「ない」という回答が前年よりやや増え（50.1%→52.2%）、ES提出社数の増加に繋がったのだろう。ただ、依然として約半数が「ある」と回答しており（計47.8%）、予想以上に早い締切に応募を諦めた学生も少なくないことがわかる。

< 選考試験の受験状況 >

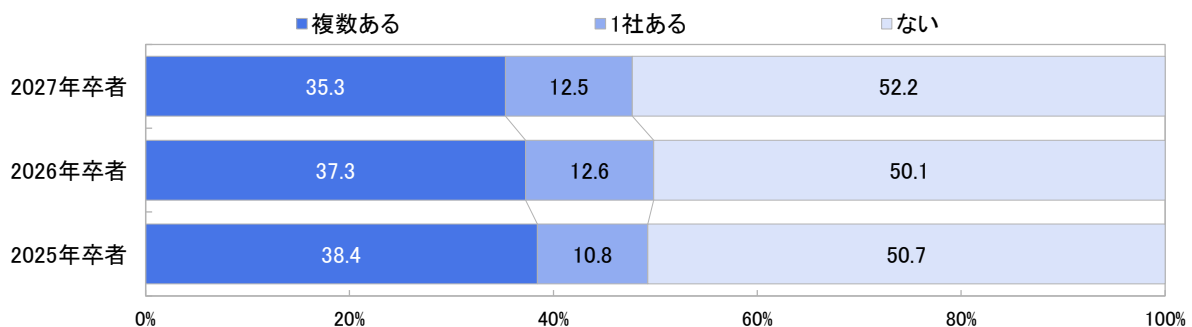
	全体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリーシートを提出した	92.3	92.5	91.5	94.6	90.3	90.2
筆記・適性テストを受けた	89.0	90.5	88.8	91.1	87.1	86.0
グループディスカッションを受けた	47.4	42.9	49.9	53.0	36.6	36.6
面接試験を受けた	88.7	87.1	86.7	90.6	86.6	90.9
最終面接を受けた	75.5	71.9	71.3	75.3	76.9	85.4

< 選考試験の受験社数 >



※「最終面接」は、「面接試験」受験者を分母に算出。それ以外は、それぞれ受験者を分母に算出

< ESの締切が早すぎて応募できなかった企業の有無 >



■3月の就活を振り返って（忙しかった学生の声）

- ES提出やテストセンター受験、面接など、常に数社を並行してスケジュール管理し、こなさないといけなかった。 <文系女子>
- 二次面接や最終面接など、ボリュームのある面接が多かったし、新しい業界も見た。 <文系男子>
- ESを1日で3件提出しなければならないなど、ES作成に追われていた。 <理系女子>
- 面接等のために東京へ向かう必要があったため、新幹線移動が多く忙しく感じた。 <理系男子>

3. 4月1日現在の内定状況

4月1日の調査時点で内定を得ている学生は全体の67.6%。先月調査(3月1日)の51.7%から1カ月間で15.9ポイント増え、7割近くに達した。解禁を境に就職戦線が大きく動いた様子が読み取れる。前年同期(64.9%)との差は2.7ポイント。ここまで前年を上回る数字で推移しているが、前年同月との差は徐々に縮まってきている。

内定率は文系より理系で高く、理系は男女とも7割を超える。

内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは32.6%。前年同期調査(37.9%)を下回り、内定取得後も6割近くが就職活動を続けていると回答した(59.1%)。ただし、理系は内定取得者の約半数が就活を終了するなど、文理での差が目立つ(文系は2割台)。

< 4月1日現在の内定状況 > *「内定」には、内々定を含む

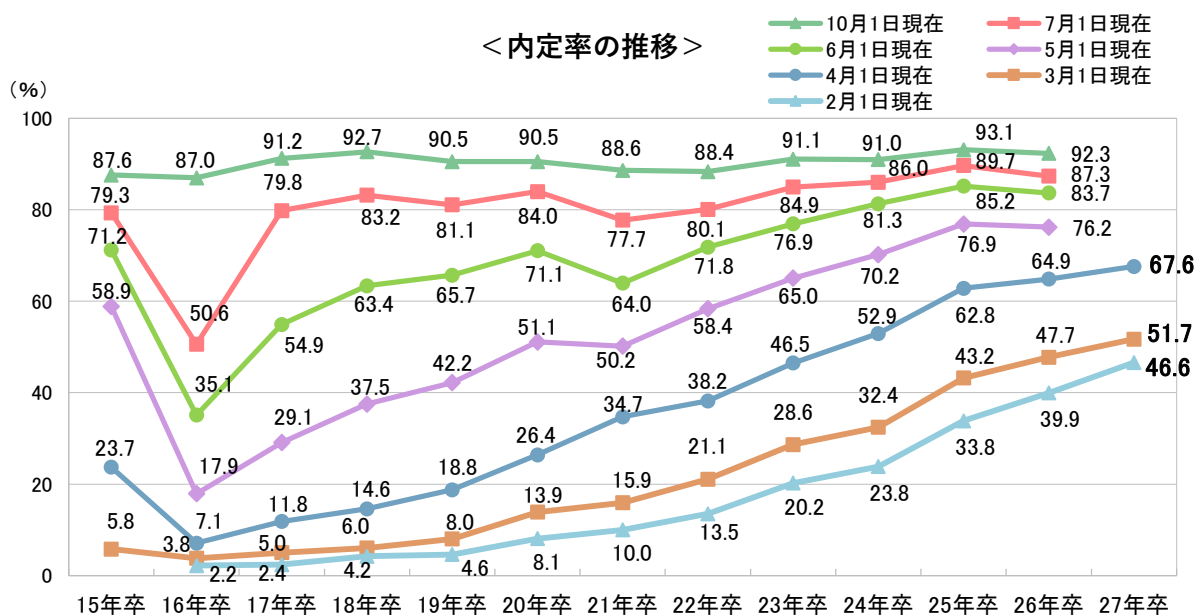
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		67.6 (64.9)	64.8 (59.3)	63.2 (60.9)	74.7 (76.4)	79.6 (73.5)
内定なし		32.4 (35.1)	35.2 (40.7)	36.8 (39.1)	25.3 (23.6)	20.4 (26.5)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	32.6 (37.9)	25.9 (30.6)	22.0 (26.7)	53.2 (56.4)	49.6 (50.9)
	活動は終了したが複数内定保持	7.5 (7.1)	5.0 (6.7)	10.5 (8.1)	7.9 (6.9)	5.3 (6.1)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.8 (0.5)	0.4 (0.0)	0.3 (0.7)	2.2 (0.5)	1.5 (0.9)
	就職活動継続	59.1 (54.5)	68.8 (62.7)	67.1 (64.5)	36.7 (36.3)	43.6 (42.1)

(%)

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		2.1 (2.1)	2.2 (2.2)	2.1 (2.1)	1.9 (2.0)	2.0 (1.9)

(社)

※ ()内は前年(4月1日現在)の数値



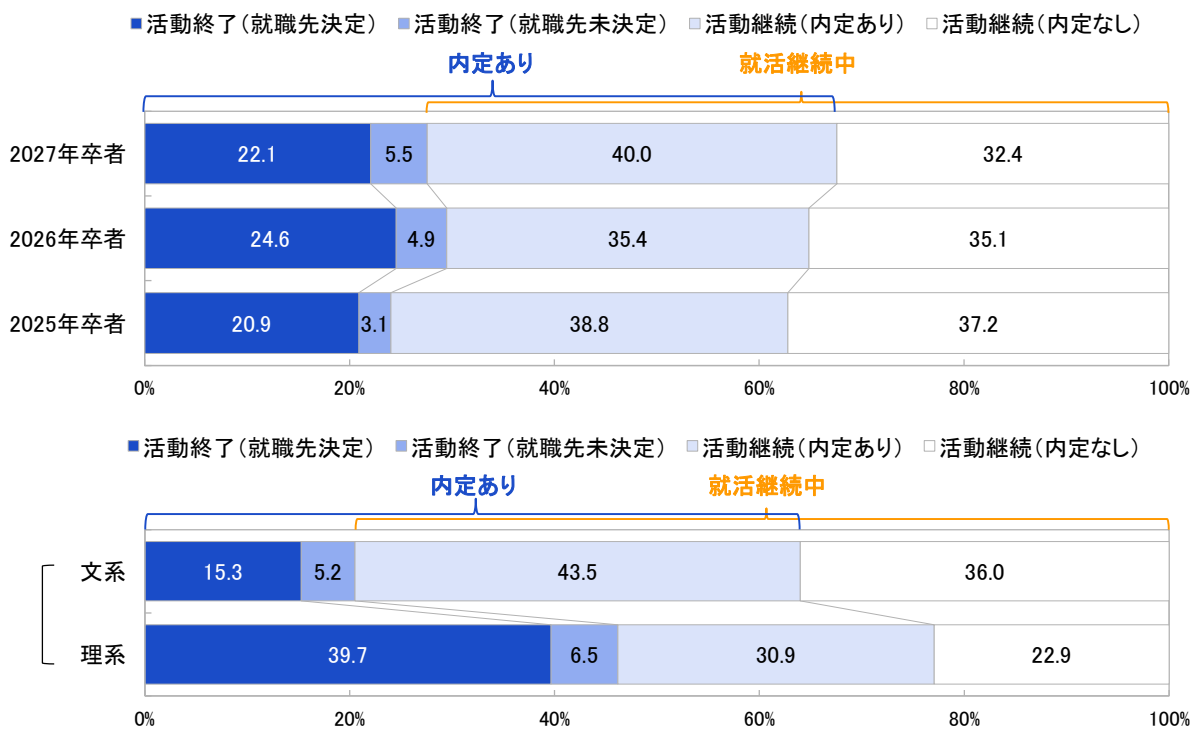
※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~27卒は6月

モニター学生全体を分母にして活動状況の分布を見ると、調査時点で就職先を決定して就職活動を終了した者の割合は22.1%。前年同期(24.6%)より2.5ポイント減少した。複数内定を保留しているなど未決定である者(5.5%)を合わせると、終了者の割合は27.6%になる。

一方で、内定を持ちながら活動をする学生が増え、全体の4割を占める(40.0%)。未内定学生(32.4%)より7.6ポイント多い。

活動状況の分布は文理による差が大きく、文系の終了者は2割ほどであるのに対し(計20.5%)、理系学生は4割以上が終了したと回答した(計46.2%)。

<活動状況の分布>



内定を得ている学生に内定企業の業界を尋ね、上位業界をまとめた(全40業界。複数回答あり)。最も多いのは「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」(27.4%)で、2位の「建設・住宅・不動産」(14.8%)を大きく引き離す。3位は「調査・コンサルタント」(12.2%)で、上位3位まで前年と同じ顔ぶれ。

なお、「情報処理・ソフトウェア」は文系・理系とも1位で、文理を問わず多くの内定が出ている。「建設・住宅・不動産」は理系で、「調査・コンサルタント」は文系で順位が高い。

<内定を得た業界(上位5業界)>

		全体			文系		理系	
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト①	27.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	24.7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	33.1		
2	建設・住宅・不動産③	14.8	その他サービス	14.0	建設・住宅・不動産	21.3		
3	調査・コンサルタント②	12.2	調査・コンサルタント	13.5	電子・電機	21.0		
4	その他サービス⑫	11.7	銀行	12.6	素材・化学	13.2		
5	銀行⑥	9.7	保険	12.1	自動車・輸送用機器	11.4		

※○の中の数字は前年同調査の全体順位

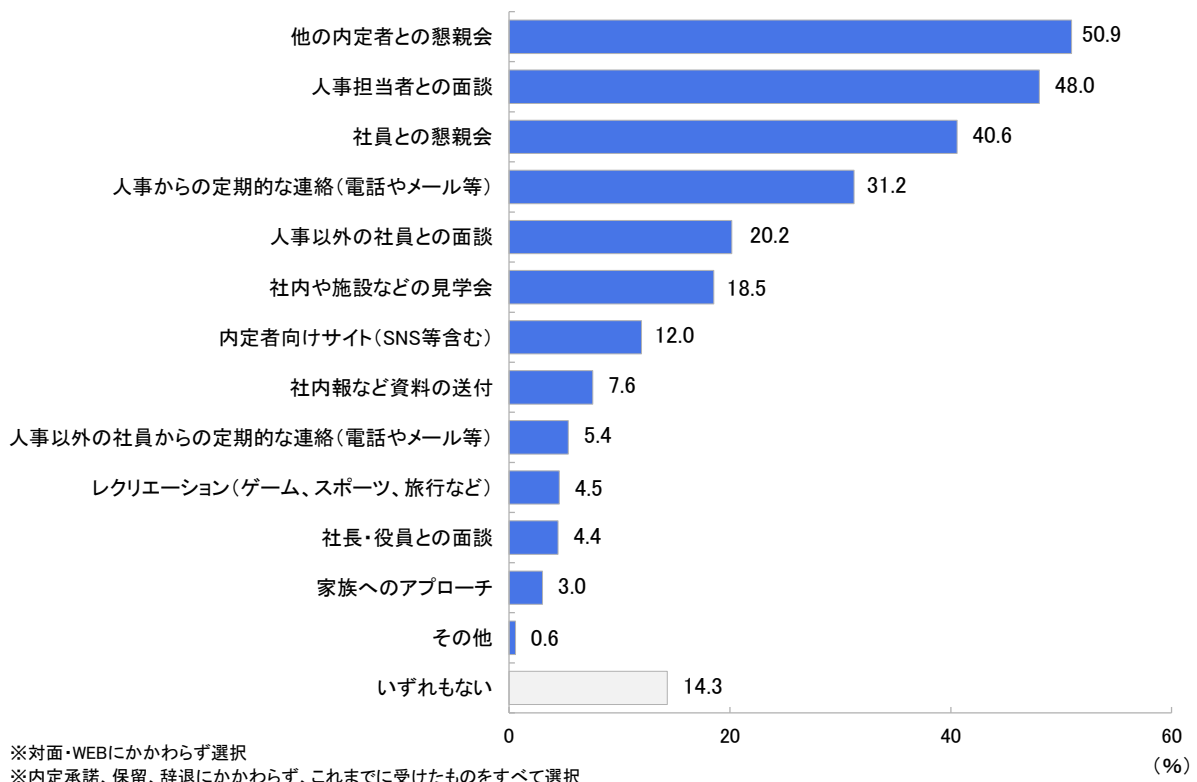
※「その他サービス」=介護・福祉サービス、アウトソーシングなどのサービス業

4. 内定後に企業から受けたフォロー

現時点で、内定取得企業からフォローを受けた経験を尋ねた。「いずれもない」は14.3%にとどまり、早くも大半の学生が内定企業からのフォローを受けている。

最も多いのは「他の内定者との懇親会」で半数が選んだ(50.9%)。「人事担当者との面談」(48.0%)、「社員との懇親会」(40.6%)が4割台で続く。内定者同士の交流や人事、現場社員との対話により、疑問や不安を解消したうえで入社を決断してもらえよう、企業が様々なかたちで内定者フォローを始めている様子が見える。

<内定を得てから、これまでに受けたフォロー>



■内定後フォローの具体的な内容など

- 迷っている理由を伝えたところ、社員と面談する機会を2度作ってくれた。 <理系男子>
- LINEグループにて様々なイベント案内を受けた。 <文系男子>
- 2カ月に1回程度電話で就活の進捗を確認されている。とてもやさしいので負担感は少ない。 <文系女子>
- 内定者全体の懇親会、配属部署の食事会に参加した。 <理系女子>
- 先輩社員との懇親会をセッティングしてもらったほか、継続的に連絡をいただいている。 <文系男子>
- 社員と他の学生との昼食会に参加した。5名ほどで質問しやすい雰囲気だった。 <文系女子>
- 内定者懇親会が地域別で行われた。また、オフィス見学は定期的開催されており、その他の社員交流などはテーマ別にオンラインで案内があった。 <理系女子>
- 社長からの内定理由の動画や、採用に関わった社員達からのオファーレターをいただいた。 <文系女子>
- 内定者向けサイトで同期となる予定の人達が設定したプロフィールを見られる。 <文系女子>
- 内定者オリエンテーションで、社屋ツアーと配属予定部署の社員に質問できる座談会があった。 <文系男子>
- 外部にも公開している技術紹介イベントのようなものの招待を受けた。 <理系男子>
- 様々なフォローの案内があるが、他社の本選考準備で時間をつくれておらず、参加できていない。 <文系女子>

5. 就職活動継続学生の動向

内定保持者を含め就職活動を継続している学生（モニター全体の72.4%）の動向を確認したい。

現時点の志望業界を5つまで選んでもらったところ(全40業界)、最も多いのは「官公庁・団体」(17.4%)で、ほぼ同率で「銀行」(17.2%)。ここに「情報処理・ソフトウェア」「インターネットサービス」が続く。3月調査まではIT業界の方が上位だったが、内定が多く出たためか、相対的に志望順位が下がった。

文理別に見ると、文系は「銀行」や「官公庁・団体」の順位が高く、理系はITの他にメーカーが上位に多い。理系男子の3位に「電子・電機」、4位に「機械・プラント」など。理系女子は「医薬品・化粧品」「水産・食品」の人气が高い。

<就職活動継続者の志望業界（上位10業界）>

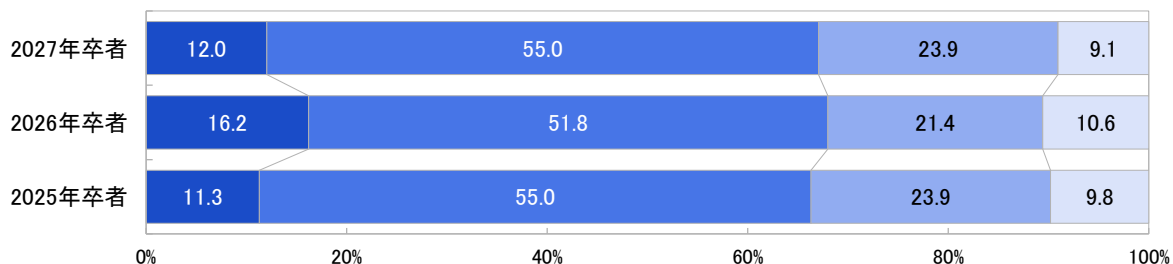
		※5つまで選択 (%)									
	全体	文系男子		文系女子		理系男子		理系女子			
1	官公庁・団体③	17.4	銀行	25.8	官公庁・団体	19.5	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	30.3	医薬品・医療関連・化粧品	29.8	
2	銀行④	17.2	官公庁・団体	18.3	情報・インターネットサービス	16.7	情報・インターネットサービス	27.0	水産・食品	26.2	
3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト①	16.3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	13.7	マスコミ	16.1	電子・電機	22.5	素材・化学	22.6	
4	情報・インターネットサービス②	15.5	マスコミ	13.1	銀行	15.2	機械・プラントエンジニアリング	13.5	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	19.0	
5	マスコミ⑫	12.3	運輸・倉庫	11.8	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	14.4	運輸・倉庫	11.2	情報・インターネットサービス	17.9	
6	運輸・倉庫⑬	10.3	エンターテインメント	10.6	運輸・倉庫	10.6	調査・コンサルタント	10.1	官公庁・団体	16.7	
7	水産・食品⑤	9.8	信用金庫・労働金庫・信用組合	10.8	ホテル・旅行	10.1	通信関連	9.0	建設・住宅・不動産	14.3	
8	建設・住宅・不動産⑩	9.6	建設・住宅・不動産	10.5	水産・食品	10.1	素材・化学	9.5	電子・電機	10.7	
9	エンターテインメント⑪	8.9	商社（総合）	10.5	エンターテインメント	9.5	自動車・輸送用機器	8.3	農業・林業・鉱業	9.5	
10	調査・コンサルタント⑦	8.6	エネルギー	8.0	建設・住宅・不動産	8.0	建設・住宅・不動産	7.9	調査・コンサルタント	8.3	
							エネルギー	7.9	精密機器・医療用機器		
							鉄鋼・非鉄・金属製品				

※○の中の数字は前年同調査の全体順位

内定を持ちながら就職活動をしている学生（全体の40.0%）に、内定企業をどのように位置付けているのかを尋ねた。「満足度が高く、納得感もあるので、この企業に入ると思う」と、ほぼ入社を決めているのは約1割（12.0%）で、前年同期（16.2%）を下回った。最も多いのは「それなりに満足しているので、他に内定が出なければ納得して入ると思う」という回答で、過半数に上る（55.0%）。入社に前向きながらも、より志望度の高い企業の結果次第とする学生が多いことがわかる。

<内定を得ている企業の位置づけ>

- 満足度が高く、納得感もあるので、この企業に入ると思う
- それなりに満足しているので、他に内定が出なければ納得して入ると思う
- 満足度は高くないが、他に内定が出なければ、この企業に入ると思う
- あくまで押さえであり、実際にこの企業に入ることはないと思う

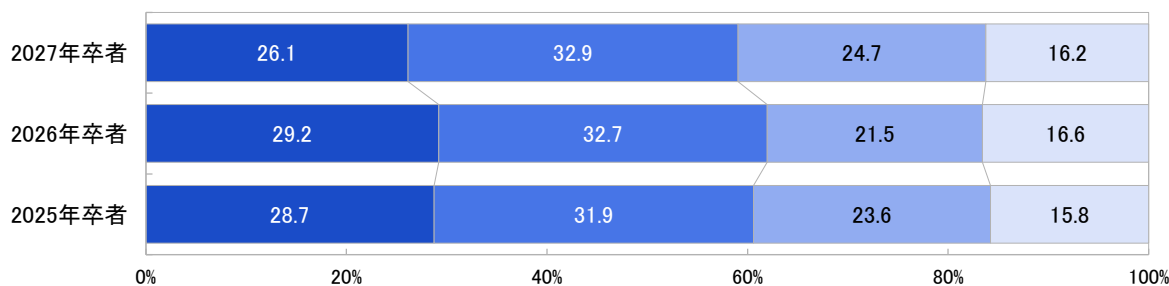


内定保持者を含め就職活動を継続している学生(全体の72.4%)に、就職活動をどのように進めていくかという方針・戦略を尋ねた。最も多いのは、「これまでに興味をもった企業(エントリーした企業)を中心に活動する」(32.9%)。前年に比べやや減少したものの、「新たな企業を探しながら、持ち駒企業の幅を広げていく」(26.1%)が次点。選考が進む中、企業を絞って活動する学生がいる一方で、新しい企業を探そうという姿勢の学生も見られる。

また、今後のエントリー予定社数などが前年より増えており、早い時期に受けた選考がある程度終了し、活動を仕切り直したい(持ち駒を増やしたい)、という学生も少なくないだろう。

<今後の就職活動の方針・戦略>

- 新たな企業を探しながら、持ち駒企業の幅を広げていく
- これまで興味をもった企業(エントリーした企業)を中心に活動する
- 現在選考が進んでいる企業に絞って活動する
- 志望度の高い企業に絞って活動する

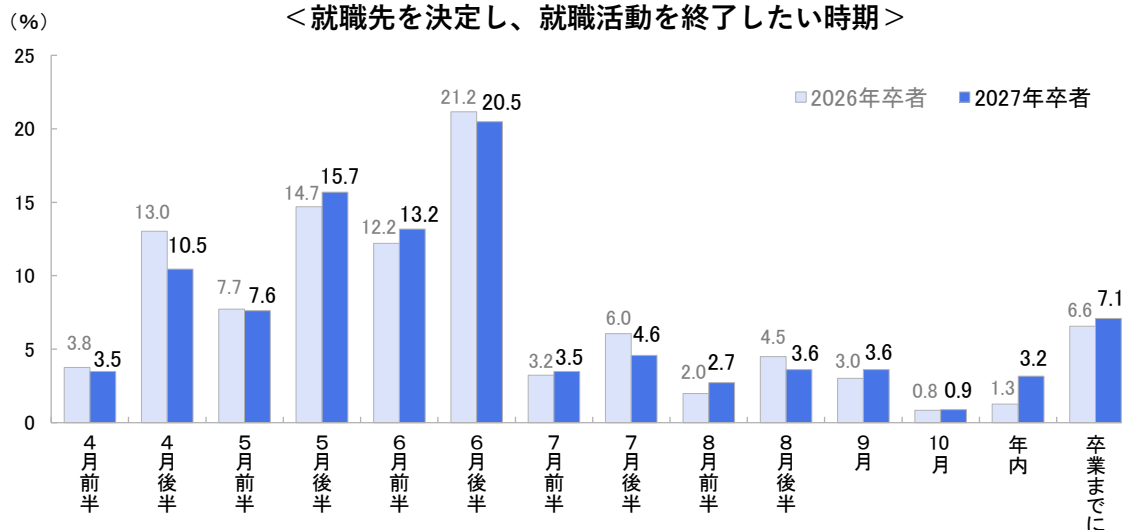


(社)

	全体	2026年卒者	2025年卒者	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
現在選考中の企業数	4.5	4.2	5.3	5.0	4.9	2.7	2.9
今後のエントリー予定社数	4.0	3.3	3.5	4.7	4.3	1.9	2.6
今後の会社説明会参加予定社数	3.2	2.9	3.1	3.3	3.7	1.5	2.0
今後のエントリーシート提出予定社数	4.1	3.8	4.0	4.5	4.5	2.2	3.1

就職先を決定して就職活動を終了したい時期は、「6月後半」が最も多い(20.5%)。ここまで前年を上回るペースで進行しているが、選考解禁後の6月を終了時期の目安にしている学生は依然多い。6月までを回答した学生は7割に上る(計71.0%)。他方で、「年内」「卒業までに」と回答した学生が前年よりやや増えており、腰を据えて納得のいくまで活動したいと考える学生も一定数いることがわかる。

<就職先を決定し、就職活動を終了したい時期>

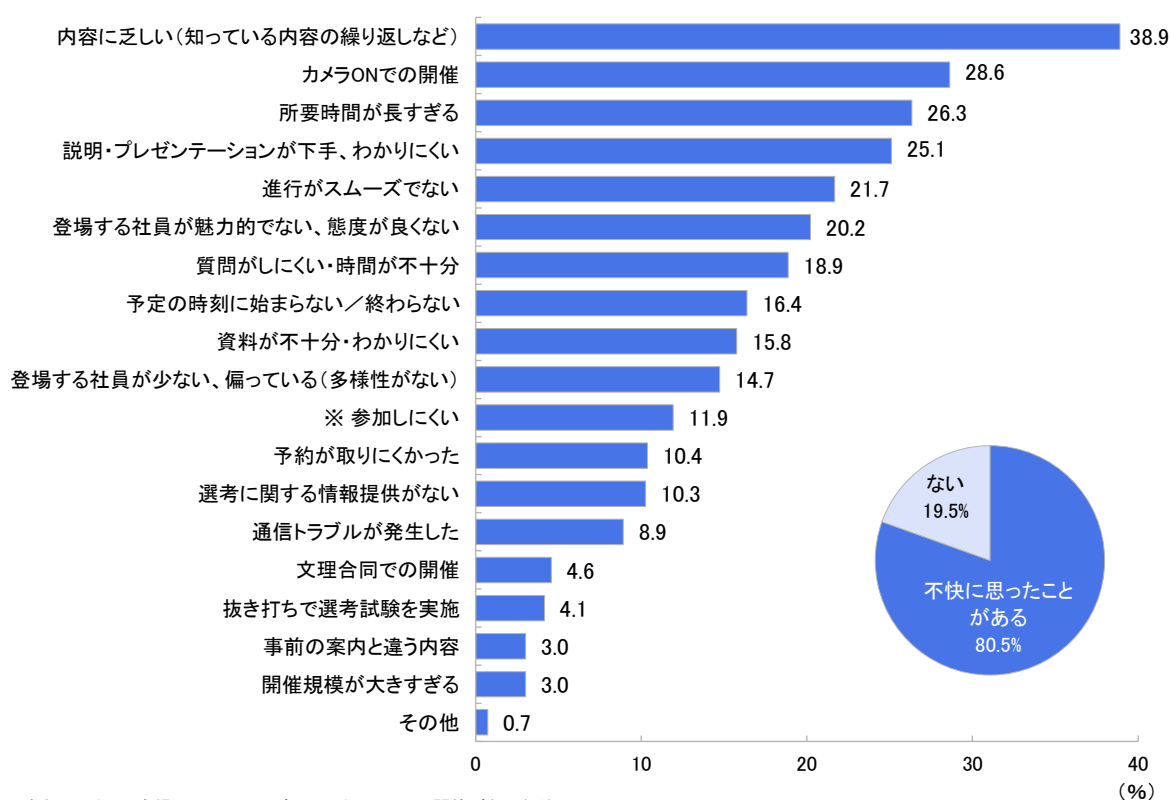


6. 会社説明会での不満

これまでに参加・視聴した会社説明会(個別企業のセミナー)で不快に思った経験を尋ねたところ、「不快に思ったことがある」と回答した学生は8割に上る(80.5%)。

具体的な内容として最も多いのは、「内容に乏しい」で、4割近い学生が選んだ(38.9%)。ホームページに掲載されている情報などが中心で、新たな情報が得られない場合に不満を抱く学生は少なくない。次に多いのは「カメラONでの開催」(28.6%)。カメラOFFの方が、場所や時間を選ばずリラックスして参加できることなどから、ワークなど顔出しを必要としない場合にカメラONを求められることに抵抗を感じる人も一定数いるようだ。3番目は「所要時間が長すぎる」(26.3%)で、短時間で効率的に企業研究をしたい学生がいることがうかがえる。

<会社説明会で不快に思ったこと>



※参加しにくい=会場へのアクセスが悪い、オンラインの開催がないなど

■実際に参加した説明会の感想

【印象がよかったもの】

- 役員から新入社員まで幅広い年齢の社員の登壇があったのが魅力的だった。 <理系女子>
- カメラオフで参加できた。事業内容も詳細だった。 <文系男子>
- 企業のホームページには掲載されていない情報も教えてくれた。 <理系男子>
- 部門別のブースを自由に回るスタイルで、自分の興味のある分野の情報を効率よく収集できた。 <理系女子>
- プレゼンテーションの資料がかなり丁寧に作られていたと感じた。 <文系女子>

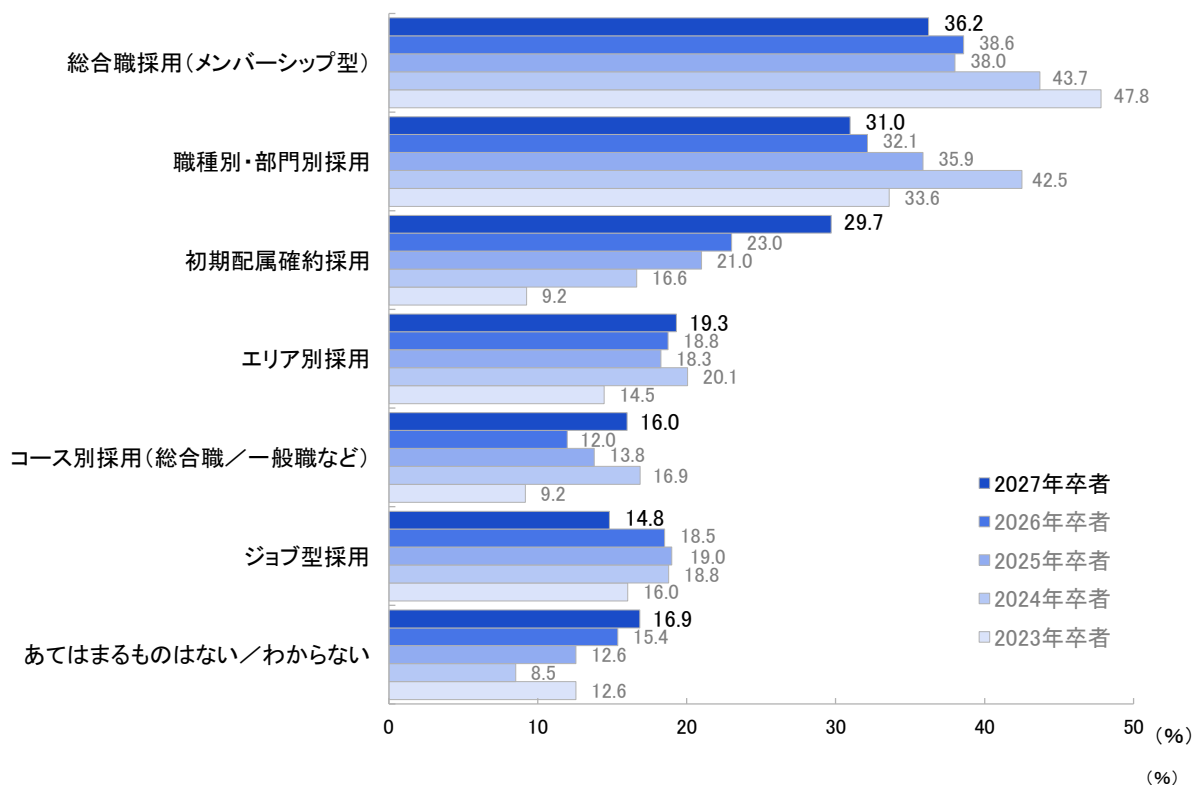
【印象が悪かったもの】

- 時間が長く、同じことを何度も話していて眠くなった。 <文系女子>
- 学期末の平日に開催され、アーカイブの視聴もできなかった。 <文系男子>
- 説明会が1時半から始まり、3時半までの予定が、実際に終了した時刻は5時過ぎだった。 <理系女子>
- 音声がずっと聞き取りにくかった。 <文系女子>

7. 魅力を感じる採用形態

学生がどのような採用形態に魅力を感じているのかを尋ね、結果を5カ年で比較した。最も多いのは「総合職採用(メンバーシップ型)」だが、この5年で大きく減少した(47.8%→36.2%)。続く「職種別・部門別採用」も減少傾向が目立つ。一方で、「初期配属確約採用」は年々増加(9.2%→29.7%)。配属を不安に思う学生のニーズに応じて実施企業が増えたことが影響しているのだろう。「エリア別採用」とあわせて特に女子学生からの人気が高い。ライフプランを立てやすいというコメントなどが寄せられた。

<魅力を感じる採用形態>



	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
総合職採用(メンバーシップ型)	36.2	48.0	36.6	26.3	15.6
職種別・部門別採用	31.0	21.1	33.3	31.2	49.7
初期配属確約採用	29.7	23.0	31.2	31.7	40.7
エリア別採用	19.3	13.8	28.3	7.5	21.0
コース別採用(総合職/一般職など)	16.0	15.9	18.3	10.8	15.6
ジョブ型採用	14.8	14.9	8.3	28.5	18.0
あてはまるものはない/わからない	16.9	16.1	18.1	16.1	16.2

■希望する採用形態について

- 初めから業務や勤務地が確定していると、今後のライフプランを描きやすい。 <文系女子>
- 配属先が決まっている方が、入社後の仕事内容をある程度把握できるため、それを踏まえた勉強などを行いやすい。 <理系男子>
- 研究職への就職にこだわりがあるため、職種別採用であれば職種が一旦は確約される。 <理系女子>
- 自分の能力や適性がどの部署に合うのか判断できないため、総合職採用が良いと思った。 <文系男子>
- エリア総合職を中心にしている。地元へ根付き、幅広いフィールドで視野を広げながら成長したい。 <文系女子>
- コース別採用は早期から興味のある領域で高い専門性を磨ける。 <理系男子>
- ジョブ型は自分の活躍できる業務を選ぶことができ、入社後のギャップが生じにくいと思う。 <文系男子>